

1. 業務概要

目次

I. 業務概要.....	1
1. 業務概要.....	1
1.1 目的	1
1.2 業務内容	1
1) 設計協議.....	1
2) 業務実施項目	1
2. 実施方針.....	2
2.1 経営戦略見直し	2
1) 事業概要の整理.....	2
2) 経営の基本方針の検討.....	3
3) 投資・財政計画の策定.....	3
2.2 アセットマネジメント	4
1) 資産の状況・将来見通しの把握	4
2) 重要度・優先度を考慮した更新	4
3) 妥当性の確認・改善方針の検討	5
4) とりまとめ	5

1. 業務概要

1.1 目的

波佐見町水道事業は、平成 18 年度に旧簡易水道の経営統合を完了し、現在は上水道事業 1 事業で運営しているが、近年における人口減少・節水意識の浸透等により、水道事業の根幹である料金収入が減少傾向で推移しており、将来の水需要の見通しを把握することが大変重要となっている。そのような中、令和元年度には、更なる施策の推進を図るとともに、経営の安定化と効率化を実現するために、「水道事業総合計画策定業務」において「波佐見町水道事業経営戦略」（以下、現行経営戦略という）を策定するなど、将来にわたって本町水道事業を持続的に運営するための構想や戦略を策定してきた。

このように、水道サービスの提供を安定的に継続できるよう、現行経営戦略をもとに水道事業の経営を推し進めてきたが、総務省では各公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくために、より質の高い経営戦略となるよう、令和 7 年度までの見直しを要請しているところである。

そのため、本業務では最新の「経営戦略策定・改定マニュアル（令和 4 年 1 月改定）」に則って現行経営戦略の見直しを行うことを目的とする。また、持続可能な水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動を目指すため「アセットマネジメント」の検討も行う。

1.2 業務内容

1) 設計協議

初回打合せは、業務内容の確認(要望事項・内容、作業方針・工程、検討事項・内容の協議確認)及び貸与資料等の確認を行う。

中間打合せは中間報告及び作業中に発生する諸条件の処理に関する確認を行う。

最終打合せは最終的な総括説明及び成果品納入、検収の立会いを行う。業務着手時、中間報告時等、業務の区切りにおいて必要に応じ協議を行う。

2) 業務実施項目

本業務の作業内容は表 1.1 のとおりである。

表 1.1 本業務の作業内容

経営戦略見直し	1) 事業概要の整理	(1) 事業の現況	① 波佐見町の概要(自然特性、社会特性等)
			② 水道事業の概要(現状評価、課題等)
			③ 人口・水需要の見通し
			④ 財政収支情報
			⑤ 運営体制(職員数と直営及び委託状況、取組みの概要、課題のまとめ)
		(2) 民間活力の活用等の見直し整理	① 給水原価・供給単価(現状)
			② 給水単価(将来見通し)
			③ その他経営指標
		(3) 経営比較分析表を活用した現状分析	
	2) 経営の基本方針の検討		
	3) 投資・財政計画の策定	(1) 投資計画	① 施設の概要
			② 施設整備の基本的な考え方
			③ 今後の施設整備
(2) 財政計画		① 財源確保の基本的な考え方	
		② 財政シミュレーションの設定条件	
	③ 財政シミュレーション結果の評価		
(3) 収支ギャップ解消に係る取り組み			
4) その他経営戦略の事後検証、更新等に関する事項			
5) とりまとめ			
6) 照査			
マネジメント	1) 資産の状況・将来見通しの把握	(1) 資産の現況把握	
		(2) 資産の将来見通しの把握	
	2) 重要度・優先度を考慮した更新	(1) 重要度・優先度を考慮した更新需要の算定	
		(2) 財政収支見通し(更新財源確保)の検討	
	3) 妥当性の確認・改善方針の検討	(1) 妥当性の確認と検討結果のとりまとめ	
		(2) マクロマネジメントのレベルアップに向けた改善方策の検討	
	4) とりまとめ		

2. 実施方針

2.1 経営戦略見直し

最新の「経営戦略策定・改定マニュアル(令和4年1月改定)」を踏まえて、効率化・健全化のあらゆる可能性を検討し、投資以外の経費も含めた上で収入と支出が均衡するよう、現行経営戦略の見直しを行う。

1) 事業概要の整理

(1) 事業の現況

「水道事業総合計画策定業務(令和元年度)」において策定した「波佐見町水道ビジョン」の内容などを踏まえ、現行経営戦略見直しに向けた事業概要の整理を行う。

- ① 波佐見町の概要(自然特性、社会特性等)
- ② 水道事業の概要(現状評価、課題等)

- ③ 人口・水需要の見通し
- ④ 財政収支情報
- ⑤ 運営体制(職員数と直営及び委託状況、取組みの概要、課題のまとめ)

(2) 民間活力の活用等の見直し整理

民間活力の活用等の見直しについて整理する。

(3) 経営比較分析表を活用した現状分析

「波佐見町水道ビジョン」や民間活力の活用に関する見直し、直近の決算状況を踏まえ、本町の経営状況の見直しなどについて経営比較表を活用し、現状、将来の経年変化などについて分析を行う。

- ① 給水原価・供給単価(現状)
- ② 給水単価(将来見直し)
- ③ その他経営指標

2) 経営の基本方針の検討

経営収支比率、企業債残高対給水収益比率、施設利用率、有形固定資産減価償却率、耐震化率、経年化率など、重要な指標を抽出し、また、これらの目標値を設定することにより、投資、財政計画策定における基本方針を検討する。

3) 投資・財政計画の策定

「投資試算」をはじめとする支出と、「財源試算」により示される収入が、人件費をはじめとする投資以外の経費を含めた上で均衡した形で策定する。また、重要指標の目標値を達成できるかの検証を行う。

(1) 投資計画

各種計画及びこれまでの実績に基づき、投資計画として整理する。

- ① 施設の概要
- ② 施設整備の基本的な考え方
- ③ 今後の施設整備

(2) 財政計画

財政収支見込みにおける経常収支の検討条件を設定し、財政収支の見直しを試算する。

- ① 財源確保の基本的な考え方
- ② 財政シミュレーションの設定条件
- ③ 財政シミュレーション結果の評価

(3) 収支ギャップ解消に係る取り組み

投資計画と財政計画にギャップが生じる(投資に必要な財源を確保できない)場合には、料金改定や経費の削減など、ギャップの解消を図るための取り組みについての検討を行う。

(4) その他経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略に対する今後の進捗管理(モニタリング)や見直し(ローリング)等の事後検証、更新等に関する考え方について検討し、経営戦略指標(前期・中期・後期)を作成する。また、アセットマネジメント手法のレベルアップに向けた現状の課題を整理し、その改善方策(改善内容、改善時期等)について検討する。

(5) とりまとめ

前項までの検討結果に関して取り纏め、報告書及び概要版を作成するものとする。また、毎年度の進捗管理や見直しについて有効に機能する考え方を整理するものとする。

(6) 照査

上記の内容を照査する。

2.2 アセットマネジメント

持続可能な水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動を目指すため「アセットマネジメント」の検討を行う。

1) 資産の状況・将来見通しの把握

(1) 資産の現況把握

建設改良費の実績の推移、固定資産データ(構造物および設備など)などの基礎資料にもとづいて、本町水道事業が保有する資産の現況を把握する。

(2) 資産の将来見通しの把握

現有資産の将来見通しとして、更新を実施しなかった場合の健全度の把握や、法定耐用年数で更新した場合の更新需要などを算出し、問題や課題などを抽出する。

2) 重要度・優先度を考慮した更新

(1) 重要度・優先度を考慮した更新需要の算定

本町における更新時期の実績、日本水道協会調べ等の全国的な更新時期を踏まえて、本町独自の更新基準(実使用年数を基準)を設定するとともに、その時の更新需要、試算の健全度などを算定する。

(2) 財政収支見通し（更新財源確保）の検討

財政収支モデルを構築し、更新需要の見通しの結果を踏まえて、財政収支の見通しを検討する。財政収支の見通しの結果から、更新財源の確保などの対応方策を検討する。

3) 妥当性の確認・改善方針の検討

(1) 妥当性の確認と検討結果のとりまとめ

投資と財政（財源確保）のバランス、資産の健全度の妥当性を確認し、検討結果を投資計画と財政計画として、とりまとめる。

(2) マクロマネジメントのレベルアップに向けた改善方策の検討

P D C A サイクルによるアセットマネジメントのレベルアップに向けた改善方策を検討する。

4) とりまとめ

以上の検討結果をとりまとめ、アセットマネジメントを策定する。なお、「経営戦略」の基礎資料として活用することを踏まえて検討を行う。